THE JAPAN EXCHANGE AND TEACHING PROGRAMME

JETからの手紙

多様な帽子をかぶりながら見えてきた福井の姿

福井県インバウンド交流課　国際交流員
Carina Gross Rosenberg（カリナ・グロス・ローゼンバーグ）

着任と業務の多様性

福井県に着任してまず感じたのは、CIR（国際交流員）の仕事は一日の中で何度も姿を変えるということでした。朝は翻訳や表敬訪問の通訳、昼食中はPA（取りまとめ団体アドバイザー）企画、午後は学校で授業、そして週に二度は相談窓口と、まるで何種類もの帽子をかぶり分けるように役割が切り替わり、そのたびに地域への理解が深まっていきます。

翻訳を通して地域の物語を整える

観光パンフレットや企業資料の翻訳を通して、福井の産業や歴史を知る機会が多くあります。時には翻訳業務を超える依頼もあり、ビジネスサミット向けの原稿をゼロから作成した際には、「これはもう翻訳ではなく…執筆？」と心の中でそっと笑いながら、母国語が英語でない方にも読みあげやすい形にまとめました。

言葉を整える作業は、地域を深く知る時間でもあります。

在日フランス商工会議所と福井県の拠点開設にあたり、合意書の翻訳と式典の司会通訳を担当

通訳を通して草の根国際交流の瞬間をつくる

海外自治体の表敬訪問や企業の技術紹介、文化事業の説明会など、毎回違うテーマの通訳に向き合います。格式ある場で言葉を精密に仕上げる日もあれば、国際交流の場でふと表情がほぐれる瞬間に寄り添うこともあります。

特に印象に残っているのは、草木染め職人の工房を訪れた時の通訳です。植物からつくる染料の仕組みについて職人さんが丁寧に説明してくださり、アーティストが植物について興味深そうに質問するやり取りを、しそジュースをいただきながら通訳しました。技法の背景にある土地の歴史や感性が、言葉を通して共有されていくひとときでした。こうした場面に触れる中で、通訳とは地域と世界をつなぐ「小さな橋」なのだと実感しました。

海外アーティストの工房訪問に同行し、職人との意見交換の通訳を担当

相談される側から、寄り添う側へ

相談窓口では、行政手続きから職場・家庭の悩みまで幅広い相談に向き合います。長期の日本暮らしが今回初めてだった私は、着任当初は制度や習慣に戸惑い、相談員の皆さんに助けられてばかりでした。その経験のおかげで、相談者の不安が自然と理解できるようになりました。

自分自身の経験と重なる深刻な相談を担当した際には迷うこともありましたが、同僚の相談員が傾聴と被害者支援の本を２冊貸してくださり、そこから得た学びがPAとしての姿勢にもつながりました。

今でも、出勤のたびに交わす会話や交換するお菓子に支えられています。少しずつ馴染んでいくこの土地で、

相談員の皆さんは私の暮らしを明るく照らしてくれる存在です。だからこそ、私もここで暮らす外国人住民の力になれる存在でありたいと思うようになりました。

米国総領事が福井県を訪問。県副知事との意見交換の通訳を担当

教育現場で生まれる小さな国際交流

学校を訪問すると、国際理解講座で子どもたちの素直な好奇心に元気をもらいます。授業後に折り紙のトカゲを手渡してくれた児童もおり、その小さな贈り物を帰りの電車で眺めながら、こうしたささやかな交流の積み重ねにこそ国際理解の芽が育つのだと感じました。

CIR の国際理解活動は地域にも広がり、相談員が企画した「ディープ」シリーズでは講師としてアメリカ各地の魅力を紹介し、6 歳から 80 代の幅広い年代の参加者と学び合っています。福井新聞の取材では、私の講座をきっかけに英検準 2 級に合格した児童がいたと伺い、成長の一端に関われたことを嬉しく思いました。

全 4 回の国際理解講座「Deep なニュージャージー州」最終回の集合写真。最終日は、参加者提案のニュージャージー州を表す「NJ」のハンドサインで記念撮影！

PR・広報で知った“ディープな福井”

広報・PR では、福井の魅力を外に向けて発信しながら、自分自身も地域への理解を深めています。初めての PR イベントで隣り合った福井県観光連盟の部長とは、越前海岸のオムライス店の話で意気投合し、越前がにの黒いブツブツの正体や旧北陸線の歴史など、ディープな福井の話を聞くようになりました。外国人として「外側」から見られがちな中で、部長との交流は福井に受け入れられていると感じたひとときでした。

福井県 PR イベントにて、来訪者に福井県の魅力を共有。スタッフの皆さんと撮影した集合写真

また、元 CIR が運営する県観光連盟の英語インスタグラムでは、国際チームの一員として「知られざる福井」を発信し、仲間も増えました。

県外での PR をする際は、「外国の方が福井を PR しているんですか？」という驚きが会話のきっかけになります。六呂師高原の星空や永平寺の話をすると、「そんな場所が福井にあるなんて」と耳を傾けてくださり、後日「実際に福井に行きました」と連絡をいただいたこともあります。言葉が人を動かす瞬間を実感した業務です。

多様な業務がつなぐもの

翻訳、通訳、相談、教育、PR。日々異なる帽子をかぶりながら、そのすべてが人とのつながりと国際交流への視点につながっています。これからも、人と人をつなぐ瞬間を大切にしながら、自分にできる国際交流の形を探し続けたいと思います。

プロフィール

Carina Gross Rosenberg
（カリナ・グロス・ローゼンバーグ）

米国・ニュージャージー州出身。米国ウィリアム・アンド・メアリー大学で心理学と経済学を二重専攻し、比較文化心理学の研究に携わるとともに、国際金融の研究にも従事した。言語を通じた国際交流に関心を持ち、理学士取得後、JET プログラムを通して福井県の CIR として勤務中。趣味は筋トレと読書。